

大学院総合政策研究科（修士課程）学位論文に係る評価に当たっての基準 法学専攻、経済・経営学専攻、メディア情報学専攻

当該研究領域における修士としての十分な知識を習得し、問題を的確に把握し、解明する能力を身に付けていること。

具体的には次の6つの項目を基準とし、それぞれ「たいへん優れている（18点）」、「優れている（15点）」、「標準（12点）」、「あまり優れていない（9点）」、「優れていない（6点）」の5段階で評価し、そのうえで総合的に判断して評価します。

(1)研究テーマの適切性

研究テーマの設定が申請された学位に対して妥当であり、論文作成に当たっての問題意識が明確であるか。

(2)研究テーマに関する先行研究レビューの適切性

研究テーマに関する先行研究を調査し、いかなる点が論点になっているのかを的確に把握しているか。

(3)研究結果・結論に至る検証の適切性

記述が結論にいたるまで内容的に首尾一貫しているか、さらに、そこにおける研究視角および論証方法が適切であり、それに則って具体的かつ的確な分析・考察がなされているか。

(4)研究内容の独自性

当該研究領域の理論的・実証的な見地から見て、論文が独自の価値を有するものとなっているか。

(5)論文の形式・体裁の適切性

論文の記述（本文、図表、引用、引用・参考文献など）が十分かつ適切であり、本論の構成が首尾一貫しているか。

(6)特記事項

その他、特記に値する事項があるか。その場合には、特記事項をコメントし、最大10点の得点を与える。